

馬伝染性貧血の防疫に貢献

- 1960年代初頭に世界に先駆けて馬伝染性貧血ウイルスの培養法および定量法を開発しました。
- 血清学的診断法を開発したことにより、過去には年間1万頭近かった本病の発生が1983年以降ほとんどなくなりました。
- 2011年に感染野生馬が摘発された際に病性鑑定を実施し、迅速な防疫活動に貢献しました。



馬伝染性貧血

世界各国で発生している馬属特有の重要感染症
家畜伝染病予防法により「家畜伝染病」に指定

1960年代
白血球培養による原因ウイルスの分離法・定量法を確立

1970年代
培養したウイルスを抗原とする血清学的診断法(寒天ゲル内沈降反応*による抗体検出法)を開発

*現在まで世界的に標準診断法として用いられている

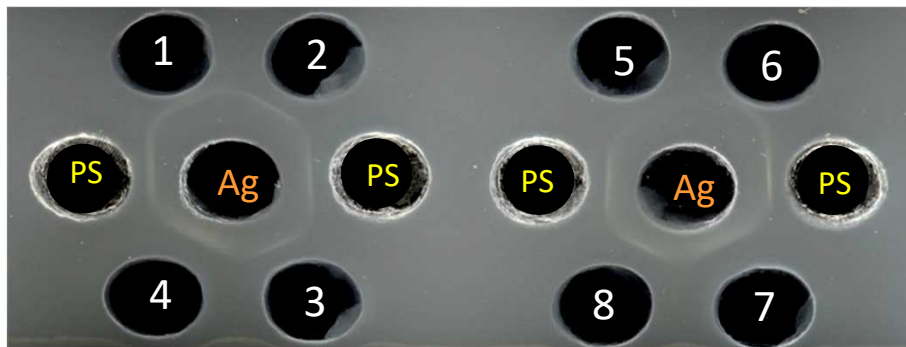
1970年代末
摘発頭数の急増

1983年以降
発生を認めず

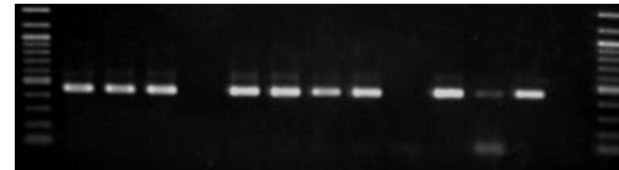
1993年
農用馬2例摘発

2011年
18年ぶりに陽性例摘発(御崎馬)・全頭淘汰

同年
血清学的・病理学的検査に加え、遺伝子検査ならびに感染実験を実施し、迅速にウイルスの性状を解明



寒天ゲル内沈降反応による感染馬からの馬伝染性貧血ウイルス抗体の検出
白い沈降線が抗体陽性であることを示す
(1~8: 被検血清、PS: 陽性指示血清、Ag: 抗原)



PCR法による感染馬からの馬伝染性貧血ウイルス遺伝子の検出 (2011)

2011年以降、飼養馬の検査や輸入検疫の継続はもちろんのこと、日本在来馬の検査の強化が図られており、新たな摘発はない！

☎ 詳しい情報を知りたい、という方はお気軽にご連絡ください。

(国研)農研機構 動物衛生研究部門 企画連携室

TEL: 029-838-7937

FAX: 029-838-7907

Email: xx145116@affrc.go.jp